

## 農場での消毒方法を再確認しましょう

本格的な夏がやって来ました。夏の暑さは家畜にストレスを与え、繁殖や免疫機能にも影響を及ぼします。また、気温が上昇すると環境中の様々な病原体が増殖しやすく、家畜が感染症にかかるリスクが高くなります。そこで、今回は家畜の健康を維持する上で重要な「消毒」について紹介したいと思います。

消毒方法には大きく以下の2つがあります。

① 物理的消毒：熱、光線（紫外線）、放射線などによる方法

スチームクリーナーによる畜舎消毒、手術器具等の煮沸消毒等があげられます。コクシジウム等の原虫オオシストは有効な消毒薬に限られているため、熱による消毒も有効な手段となります。

② 化学的消毒：消毒薬による方法

畜産現場で使用されている主な消毒薬には逆性石けん、塩素系消毒薬、両性石けん、ヨウ素系消毒薬、アルコール類などがあります。消毒薬はそれぞれ効果を示す病原体の種類が決まっています（下表参照）。

薬剤を用いた消毒の場合、その効果は粘液、糞便などで覆われていると弱くなります。したがって、事前に水洗等により有機物を除去しておく必要があります。また、殺菌力は一般的に温度の上昇に伴って高まり、低温で弱まりますが、塩素系やヨウ素系消毒薬は温度の上昇によって蒸散するため殺菌効果が低下することがあります。通常の畜舎消毒のためには逆性石けんを使用すれば十分ですが、疾病発生時には病原微生物を想定して消毒薬を選択し使用する必要があります。車両や畜舎の出入り口には安価で入手しやすい消石灰の散布も有効です。また、酸性（塩素、ヨウ素）とアルカリ性（消石灰等）の消毒薬を混ぜて使用しない等の注意も必要です。

夏場にはサルモネラ症、大腸菌症等の細菌性疾病、コクシジウム病などが発生しやすくなります。疾病の発生予防のため、農場での衛生管理の一環である「消毒」について今一度、確認してみてもはいかがでしょうか。

各種消毒薬の各種微生物に対する消毒効果

液性	消毒薬	商品名*	細菌 (大腸菌、サルモネラ等)	抗酸菌 (ヨーネ菌等)	ウイルス (インフルエンザ等)	芽胞菌 (炭疽、クロストリジウム等)	カビ	コクシジウム
酸性	塩素剤	ピルコンS	○	○	○	○	○	×
		クレンテスミクロール	○	○	○	○	○	○
ヨウ素剤	クリンナップA	ファインホール	○	○	○	○	○	×
		バイオシッド30	○	○	○	○	○	○
アルデヒド系	ポリアゾ216	グルタクリン	○	○	○	○	○	○
		クリアキール100 (水酸化ナトリウム0.1%添加)	○	○	○	○	○	○
アルカリ性	水酸化ナトリウム添加	消石灰	○	○	○	○	○	○
		ハコマ	○	○	○	○	○	○
逆性石鹸	オスバン	Zストップ	○	×	○	×	×	×
		消毒用エタノール	○	×	○	×	×	○
中性	アルコール	タナベゾール	○	○	○	×	×	○
		トライキル	○	○	○	×	×	○

※商品名は代表的なものを記載

【消毒効果】 ○：効果あり、△：効果不確実、×：効果なし、-：不明

(仙台家畜保健衛生所 防疫班 佐沢公子)